

行動災害（転倒災害・腰痛など）予防のための

青い森 “+Safe” 協議会（第8回）を開催しました

「青い森小売店舗 “+Safe” 協議会」及び「青い森介護施設 “+Safe” 協議会」は、令和7年11月19日に第8回目の協議会を合同で開催し、第一部として株式会社工藤パン様の本社工場を視察、第二部として「転倒危険箇所の表示等による『見える化』の効果検討会」を実施しましたので、その概要をお知らせします。



当協議会の開催に際し、株式会社工藤パンの青山次長から、工場の概要、安全衛生パトロールの実施状況、パン等製造における労働災害防止対策、外国人労働者や新入社員に対する教育、対応方法などについて、ご説明いただきました。

また、工場視察では、社員の皆様から各工程における作業の流れや労働災害の発生事例、その対策や日ごろの安全衛生活動等について、ご説明いただきました。

○「青い森小売店舗・介護施設 “+Safe” 協議会」における各構成員の取組等の情報交換について

青森労働局の上野労働基準部長から挨拶後、各構成員から転倒危険箇所の表示等による「見える化」の取組に係るご報告等があった一部を紹介します。

【転倒災害防止に係る「見える化」の効果検討会】

- ・ 荷物を置かないスペースを見える形でつくることによって、躓きによる転倒を防止した。
- ・ ベトナム人技能実習生にもわかりやすいようにベトナム語とピクトグラムにて注意喚起した。
- ・ 曲がり角でヒヤッとするため、外側から大きく曲がるように注意表示を取り付けた。
- ・ 階段から視線を奪うポスターを撤去し、足元に注意が向くようトラテープで注意喚起した。
- ・ 介護ベッドの背もたれや脚の角度を調整するハンドルの戻し忘れで、足が引っ掛かって転倒する危険があるため、ハンドル近くにわかりやすい注意書きを表示した。



【工場視察の感想等】

- ・ ベトナム人技能実習生がわかるようにした危険箇所等の見える化の数が多く、大変勉強になった。
- ・ 危険箇所に写真付きの大きな注意喚起が沢山あり、危険が一目でわかるようになっていた。
- ・ ヒューマンエラーを個人の問題とせず、システムの問題と捉えて対応していることが勉強になった。
- ・ ベトナム人技能実習生や新入社員ごとに帽子にマークを付け一目でわかるようにし、周囲の方がサポートする体制が参考になった。

青い森小売店舗 “+Safe” 協議会構成員	青い森介護施設 “+Safe” 協議会構成員
株式会社サンデー	社会福祉法人奥入瀬会
株式会社マエダ	医療法人サンメディコ
株式会社ユニバース	社会福祉法人スプリング特別養護老人ホーム福寿草
青森県子ども家庭部若者定着還流促進課	社会福祉法人平元会
	社会福祉法人津軽富士見会
	青森県健康医療福祉部高齢福祉保険課

御協力を頂いた株式会社工藤パン様及び同社社員の皆様ありがとうございました。